

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4590500072 | | |
| 法人名 | 吉村商工 有限会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム 風の丘 | | |
| 所在地 | 宮崎県小林市南西方1992-14 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年 7月 1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年9月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年7月23日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の意思を尊重し、常に寄り添い、その人らしく日常生活が送れるよう援助し、身体面や精神面の観察を行いながら、急変時は、早期に医療機関へ相談できる体制を整えています。日々の生活の中では、季節の物をおいしく食べてほしいと常々心がけています。春はそら豆、夏はとうもろこし、秋はさつまいも、冬は干し柿等、職員と一緒に皮むき等を楽しみながら昔話に花が咲いています。風の丘では、行事の時には煮物などを手作りしており、野菜の買い出し、野菜の皮むき、煮込み方、味付け、すべて入居者に先生になって頂き、一緒に行っています。ボランティアの方にも好評を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは家庭の延長線である、家庭に居ると同じ生活を大切にしたいという思いで、常に利用者中心の考えで意思を尊重し、寄り添い、その人らしく日常生活が送れるよう支援している。食事は自家栽培の旬のものを彩りよく陶器に盛り付け、利用者に楽しんでもらえるよう工夫している。ホームの空き地は開放し、近隣の多くの子供たちの遊び場となり、利用者との交流の場となっている。利用者が、地域住民から仏壇に供える花をもらうなど、良好な関係を構築している。防災に対しては、運営推進会議でのアドバイスにより防災用の備蓄を行うなど、いろいろな意見をサービス向上に役立てている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「地域とともに歩み、良質でやさしい介護を提供し入居者中心の介護施設を目指す」の理念を、日々、朝礼で唱和を続けることで暗記し、意識も向上している。理念とともに介護目標を月毎に職員で掲げている。 | 運営者及び管理者は、地域密着型サービスの意義を踏まえ、利用者中心の考え方を常に意識した理念を持っている。職員は理念を更に掘り下げて、各自が月ごとに介護目標を掲げ、声かけや態度など、日々のサービスの提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているかを確認している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 夏祭りや草刈り、地区のごみ拾いなどを通じて、入居者も地域の方との交流が少しではあるができています。さらに深めていけるよう増やして行きたい。 | 利用者は地域住民の一人であるという考えで自治会に加入しており、自治会長、民生委員と密に連携を図り、地域の行事に参加している。ホームの空き地を近所の子供達の遊び場として開放し、利用者との交流の場となっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 他施設と併せて、徘徊模擬訓練などに地域の方と一緒に参加し、認知症への理解を深めてもらえるような取り組みを行っています。地区の回覧板へは、風の丘だよりを定期的に発信し、情報提供も継続し行っています。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月毎、推進会議を開催し、事業所の取り組みやサービスの状況などを報告している。会議中に出た意見等は、開催後、関係するものは職員に報告し、話し合いをしている。資料についても確認をしてもらっている。 | 運営推進会議でだされた意見や提案については、すぐに検討するようにしている。防災についてのアドバイスがあり、食料、飲料の備蓄、ヘッドライトの購入等を行った。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 以前と同様に、問題が出てきた場合は、その都度市の担当者へ連絡し、相談を行っている。 | 市の担当者が運営推進会議に出席しており、ホームの運営状況を伝える機会となっている。また、日頃から連絡を密に取り合い、相談に乗ってもらっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束のマニュアルを作成しており、職員が身体拘束に対しての知識を踏まえた上で、日常生活支援に取り組んでいる。 | 管理者、職員は勉強会を行い、見守りと対応を工夫し、言葉をさえぎったり、気持ちを抑えつけないよう身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 援助される側、する側の心理状態が、行動への対応に表れると考えており、理解力を高めることも大切である。言動・行動に対し、普段より職員同士で確認を行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | これらの事業、制度を職員が学べる機会が少ないのが現状である。以前は成年後見制度を利用されている入居者がおられ、担当の方と接する機会があったが、現在は利用者がいない為、その様な方と接する機会もなくなっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前、入居時ともに十分な説明を行い、ご家族が納得して頂いたうえで契約を行っている。入居後も経済的な不安、請求に対する疑問等については、その都度説明を行い、理解して頂けるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会、電話等で随時家族と意見交換を行っている。その際、意見・要望のあった時には、担当職員と話し合う場を設け、入居者、家族の声を大事にする取り組みを行っている。 | 利用者には日常生活の中で常に何か要望がないかを確認しながら介護にあたっている。家族が来訪した時は、要望や不満がないかを聞いている。出された意見や要望についてはすぐに検討し、対応するようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 現場主任が中心となり、いつでも意見が言える環境作りを行っている。意見・要望については、上司と話し合う場を設け、改善策を見出せている。 | 運営者は定期的に現場に足を運び、現場の状況を確認しており、職員は意見をだしやすい。また、出された意見や要望については検討し、改善策を早急に出している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 「家庭を第一に」と代表者が職員に常に言われており、個人個人が無理のないシフトで働くことができている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 昨年よりも研修に参加できる機会が増えてきている。参加できなかった職員へも、研修内容を報告する時間を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ネットワーク、勉強会へ積極的に参加している。近くの施設とは、相互の行事に参加したりと交流の機会が増えてきている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には家族に基本情報を記入して頂き、入居後は、常に本人・家族と話す時間を設け、不安な事・要望等を聞ける環境作りを行い、少しでも安心して不安の無い生活が送れるように働きかけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人同様、家族の面会時や電話等で話す時間を設け、家族が安心してホームに任せて頂けるよう働きかけている。また、本人の状況等についても、面会時や電話等で報告を行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人・家族の要望を聞き、今現在利用されているサービス機関との情報交換の場を設け、連携を図っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 煮物、干し柿等、一緒に何かをする時間を設けている。入居者に教えて頂くことも多々ある。個別に散歩や買い物等に出掛け、会話ができる環境作りも行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時、家族との時間を大切にもらえるような環境作りを行い、定期的な風の丘だよりの送付、遠方の方へは、現状報告と写真の送付を行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居時、自宅より本人の馴染みのある物を持って来て頂き、安心できる環境作りを心掛けて、居室には、家族に持ってきてもらった写真を貼っている。時には、自宅周辺へドライブに出掛けることもある。 | 友人や知人の来訪が多い。また、職員は、利用者がなじみの人に電話をかけたり、葉書を出すなどの関係継続の支援に努めている。なじみのスーパーや美容室と一緒に出掛けたりしている。 | |

宮崎県小林市 グループホーム風の丘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|---------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | フロアで交流を楽しむ為、環境作りを行っている。外出も同行し、季節感や流行物を理解しながら、入居者同士で会話が弾んでいる。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 当施設を離れられた方に対して、状況確認や相談等、家族と連絡を取り合っている。入院された方については面会に行き、状況を把握している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活の中で、会話・行動・表情等により、全てではないが、本人の意向や希望をできる限り把握できるよう努めている。 | 自分で思いや要望を表現できない利用者には、返答ができるような問いかけを行い、ゆっくりと時間をかけて対応している。職員は朝礼などで利用者の様子や情報を共有し、把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時、家族より書いて頂いた「私の基本情報」を基に、これまでの生活環境を把握し、また、利用されていたサービス機関からも情報提供して頂き、支援の参考にしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 申し送り、介護記録、個人記録を全職員が活用し、入居者一人ひとりの状況把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人と家族、また、職員の意見を取り入れ、月1回の評価を作成し、定期的な評価を行いながら、介護計画を作成している。 | ホーム独自の評価票の記載方法を工夫しており、全職員の意見を反映している。利用者の状況を明確に記載しており、評価も確実になされている。介護計画を作成する際に、必要な関係者と話し合いを行っているが、本人・家族の意見に関しての記載が十分にはなされていない。 | 介護計画の作成について、再度、記録を整理することを期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 実践状況を日々の個別記録に記入し、申し送り等を行いながら、職員間の情報を共有し、見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者、家族の要望に合わせ、他事業所との連携により、最善の方法で要望に応えられるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 年間行事を通して様々なボランティアの方の協力を得ている。月1回傾聴ボランティア、絵手紙教室の方の来訪、図書の貸し出し等、地域資源の活用に努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者、家族の希望するかかりつけ医を持ち、また、協力医との連携を図ることで、適切な医療・受診ができています。受診は施設対応で行っているが、その都度家族と連絡をとっている。 | 系列のクリニックの協力医が、緊急時の往診や月1回の訪問診療を行っており、適切な医療が受けられるよう体制を整えている。歯科受診等は利用者のかかりつけ医に職員が同行している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 当施設は、看護師は不在であるが、日常的に健康管理を行い、異常に気付いた場合は、早期にかかりつけ医と連絡を取り、かかりつけ医の指示をすぐに仰げるよう連携体制をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、介護サマリー等を利用し、情報提供を行っている。 退院前も病院へ出向き、情報をもらっており、退院後も病院関係者との連絡を密に取り、情報交換や相談に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 同事業所の関連機関として、内科医院が開業し、医師と看取りについて調整中である。また、重度化、終末期に向けては、協力してもらえる個人と連携していく計画もあり、支援に向けて体制を強化している。 | 看取りの指針、同意書を整備している。看取りの事例はないが、介護職や看護師、協力医などと協議し、今後は受け入れる方向で体制を整えている。利用者の状態の変化に応じて、終末期のあり方について、本人や家族と話し合いを行っていく方針である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成し、対応の勉強会も定期的に行っているが、全職員の参加は難しい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な総合訓練は実施できているが、地域との連携はまだ不十分である。今後訓練も併せて、協力を呼び掛けていきたい。 | 夜間を想定した訓練を実施し、自治会長や民生委員などの意見・協力を得て、防災対策として飲料水や食料の備蓄、ヘッドライトの設置等を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者一人ひとりの人格を尊重しながら、その人に応じた方言や馴染みのある言葉掛けで対応している。 | 特に、排便時にはさりげない対応をするように心掛けている。また、オムツ交換時には、バスタオルで腹部を覆うなどの対応をしている。利用者によっては、その人に応じた方言で話すこともある。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 特に視力障害、意思疎通の困難な方に対し、本人の行動や表情を観察しながら声掛けを行い、自己決定ができるように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 理念通り、入居者のペースに合わせ、決して無理強いしない支援を心掛け、入居者本人の希望に添えるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理容師の来訪の依頼等、一人ひとりの気持ちを尊重しながら、本人の希望に合わせた支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好き嫌い等を確認した上で、メニューの代替え等、その都度対応している。食事の準備以外でも入居者の声を尊重し、旬の物、煮物やおにぎり等、一緒に調理できる時間を設けている。 | 「人として生きるためには食事が大切」と考え、専任の調理師を配置している。また、自家農園で栽培した旬の野菜を使用し、料理により器も変え、盛り付けも工夫するなど、食事を楽しめるよう努めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量は常にチェックする体制をとっており、入居者の体調に合わせ、水分等を調整している。また、食事は、入居者に合わせた形状(おかゆ、きざみ等)で対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食前は「あ・い・う・べー」体操を行い、毎食後は、個々に合わせた歯磨きと舌のブラッシングも行い、清潔保持に努めている。就寝前は、義歯を洗浄液につけて対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、トイレ誘導の声掛けを行い、排泄パターンを把握している。排泄が自立している入居者については、声掛けに配慮し、確認するようにしている。 | トイレが7か所設置されており、トイレ誘導がスムーズに行える環境を整えている。オムツ使用の利用者でも、昼間は布パンツに着替え、トイレ誘導をしている。誘導時の声掛けは、自尊心を傷つけないよう心掛けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェック表を用い、一人ひとりの排便状態を確認している。また、便秘の場合は主治医に相談したり、施設では水分摂取量、食物繊維の多い食べ物をおやつに取り入れたり配慮している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入居者の体調や気持ち、その方のタイミングに合わせて支援を行っている。入浴は個別に対応できており、全身の状態等、細かい観察ができています。 | 入浴を拒む利用者に対しては、無理強いせず声掛けを行いながら、利用者の状況に合わせて支援している。入浴回数など、本人、家族の希望に沿えるよう努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 室内の温度調整等、一人ひとりに合わせた環境作りを行っている。夜眠れない入居者に対しては、お茶を飲みながら話をしたりと、本人が安心して入眠できるように対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の薬の用法や用量については、薬局からもらう薬処方をファイルに綴じ、全職員がいつでも閲覧し、把握・確認できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者の状況に合わせて、無理のないように役割を持って、できることを一緒に行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は、散歩やドライブに出掛けたり、買い物では自分の欲しい物を選んで頂いて、気分転換を図っている。また、自宅外出は、家族の協力で墓参りの支援もしている。 | 天気の良い日には玄関先でお茶飲み会を開催し、近隣の方が参加することもある。また、近くの茶飲ん場に出掛けたり、墓参りやお寺に行きたいとの希望があれば、職員が同行している。利用者の希望により、スーパーに買い物に行く機会等を作っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ほとんどの方がお金の管理は難しい状況である為、施設で家族より現金を預かり、買い物等の際には職員立ち会いの下、レジにて支払いを行っている。各自の出納帳で管理を行っており、定期的に家族へ報告している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望時、家族からの電話は取り次ぎ、ゆっくり話して頂けるよう支援している。入居者の中には携帯電話を所持して使っているケースもある。遠方の方には手紙に写真を添え、近況を報告している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者と一緒に、季節を感じられる目にも優しい飾りを作り、居心地の良い空間にしている。 | 廊下や食堂には吹き抜けの天窓が4か所設けてあり、明るい光りが入る。落ち着いた雰囲気の中で利用者が穏やかに過ごせるよう配慮している。トイレの数も多く、浴室も清潔に保たれている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールの一角に畳とソファがあり、昼寝をしたり、入居者同士で会話したりと、思い思いにくつろいで過ごして頂けるように工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの物を自宅より持ってきて頂いたり、家族の写真や本人が作った作品を飾って、安心して過ごせる居室作りをしている。また、自宅より仏壇を持って来られている方もおり、個別に過ごしやすい空間を工夫している。 | 利用者の好みに合わせて居室作りをしている。例えば、ベッドと机と椅子だけのシンプルなものもあれば、仏壇や冷蔵庫などを持ち込んでいる利用者もおり、本人が居心地良く過ごせるような空間作りを支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内の各箇所に手すりを設置している。2つの居室にはトイレが設置されている。歩行時の動線上に物が無いよう配慮し、洗面台も入居者に合わせた高さとなっている。 | | |